

Case : 228

床面とベースのわずかな段差につまづき、転倒しそうになる

場面の説明

ベッドへ戻ろうとした際、床置き形手すりのベースにあるわずかな段差につまづき転倒しそうになった



利用シーン

-  起居・就寝
-  立ち座り
-  移動
-  夜間

主な利用場所

-  寝室
-  段差・縁石

介護保険の種目

-  手すり

分類コード (CCTA95)

123009 (床置き式起き上がり用手すり)

介護テクノロジー

-

二次元バーコード



解説

特にすり足の高齢者の場合、ほんの2～3?の段差でも足を引っかけてしまうことがあります。また、白内障など視覚の障害が起因して、段差を確認しづらい場合もあります。いずれにしても、段差を認識しやすい工夫をすることで、安全を高めることが可能です。

参考要因

- 人：すり足で歩いていた
- 人：段差があることに気づいていなかった
- モノ：注意表示がなかった
- モノ：視力が衰えた利用者にはベースが見えづらい色だった
- 環境：部屋が暗くて足元が見えなかった